

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103437		
法人名	(有)なぎさ		
事業所名	グループホームなぎさ		
所在地	長崎市かき道6丁目3-5		
自己評価作成日	平成25年1月24日	評価結果市町村受理日	平成25年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々癒しの心で接しております。ウッドデッキがあり、過ごしやすい季節の際はお茶をしたりひなたぼっこをしたりのんびり過ごしております。又リビングにても入居者様が揃って過ごすことがほとんどです。入居者様のペースに合わせ毎日を楽しみ過ごしております。昇降運動・立位運動など個人にあった運動をし下肢筋力低下を防いでおります。無理がないよう楽しくできる運動や生活リハビリを取り入れております。 外食では、利用者様のご希望を聞きお店を選んでおります。空調管理も各居室気配りをしております。 地域行事には、参加を心掛け触れ合う場作りを支援しています。最近では希望にて陶芸教室に数名月1回通っております

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成25年2月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の方に喜んで頂きたいという「癒(いやし)」の理念のもとに、笑顔で日常生活を送ることができるよう職員が寄り添い支援を行っている。開設当初から音楽療法を実施しており、好きな曲を歌ったり、音楽に合わせて鈴等の楽器を鳴らすことが利用者の楽しみの一つとなっている。排泄チェック表を活用しての排泄支援により、おむつやリハビリパンツの利用者が布パンツに改善した例が多くあり、利用者に自立した排泄の喜びを感じてもらえるよう支援し、その事が職員の喜びにもなっている。利用者が外出の際には、受け入れ可能な温泉などの施設を職員が事前に確認してから利用している。外食の場合は事前にメニューを受け取り利用者が食べるものを注文してから現地に出向く等の食事を楽しめるよう工夫した支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「いやし」理念と経営方針は毎月2回、職員会議の際職員全員で読み上げ常に頭に置き実践に繋げています	利用者の方に喜んで毎日を通り過ぎていただきたいという「癒(いやし)」の理念のもとに、職員が利用者寄り添い、真心を待って接するようにしている。職員会議で理念の唱和を行い、利用者笑顔を増やすために音楽療法、園児や児童等とのふれあいの機会を多く持つようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ガス祭り、ペーロン大会のご利用者様の参加(ペーロン大会は招待されたいの見学)地域の敬老会には、職員毎年出し物を披露しています。	自治会に加入し、自治会長から地域の行事情報を得ている。職員が地域の敬老会で出し物を披露し、ペーロン見学には利用者の席が確保されている。東洋ガスのガス祭りには「なぎさコーナー」があり、利用者の作品出展、介護用品や介護相談などを受けて地域住民との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の感謝祭、ガス祭りにてなぎさコーナーを設け、介護相談やホームの暮らしの様子などをお伝えしています。介護用品の説明などもしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プロジェクターにてのご利用者様の写真にて様子を伝えたり、ビデオにてお伝えしています。ご家族の意見をお聞きし制服に名前をつける事、月1回メッセージカードにて様子をお伝えしています	運営推進会議は年間開催日を出席者へ事前に知らせている。出席者は要件を満たしており、2ヶ月に1回の開催となっている。利用者の近況報告・行事・消防訓練等の報告を行い、家族等から避難訓練の助言を受けている。運営推進会議に出席できない家族には郵送で報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてすこやか支援課の方に参加していただきおサービスの取組など見ていただいております	市の担当者とはグループホーム連絡協議会や電話にて連絡を行っている。介護相談員の受け入れを行っている。地域包括支援センターのまちなか라운ジの研修に職員が出席するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておりません。日頃より身体拘束のないケアを心がけております。又御家族からの要望もありましたが、市役所の方へ相談し結果報告し拘束のない方向へ納得していただきました	身体拘束防止の外部研修において、身体拘束の定義などを理解するようにしている。身体拘束委員会を立ち上げ、カンファレンス時に言葉による身体拘束の例示などを再確認している。玄関は日中は開錠しており、利用者の外出についても職員間の連携で見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事前に虐待についてのアンケートを取り、職員会議の際時間を設け研修を行っています		

グループホームなぎさ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を増し、地域の人・利用者様御家族へのアドバイスをしております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定・変更があればその都度説明し理解してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き外部者の意見家族からの意見交換ができる	重要事項説明書に苦情受付・相談の説明し、意見箱を設置している。家族の要望を受けて、避難経路の掲示を行ったり、請求書と一緒に利用者の様子をメッセージカードとして郵送したり、職員のシャツに名前を入れるなど運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議よりの意見交換を大切にしている	代表者は年2回職員と個別面談を行い、意見や要望を聴く機会を設けている。また、月2回の職員会議に代表者が出席して職員の意見を聞いている。利用者援助のために、同一建物内のユニット間やデイサービスとグループホーム間で連絡を取るトランシーバーの導入案を取り入れ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表にて職員の実績を評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回職員会議にて、外部より講師を招き勉強会を行ったり、職員一人一人にあった研修に日勤扱いにし、行く機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで地区会を開催したり、又同業者同士の行事に招待したり参加したりと交流を図っております。現在4施設でのご利用者・職員の交流をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	入所前に事前に面接し、御本人さんに要望を聞いたり、伝える事が難しい方は何をしたいのか考え、昔の情報のなどを御家族に聞きサービスに活かしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリをしていただきたいとの要望がある方は、病院にてのリハビリを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯ものを干したり、畳んだり、又入浴準備、シーツ交換も職員と一緒にしております。利用者様がお茶の葉を詰めたり時におやつも一緒に作っております。なるべくご本人さんに役割をもっといただいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに足を運んでいただく機会を作る為に、日用品や衣類など必要な時は連絡持ってきていただいています。行事の参加にも働きかけたり、外出時にも声をかけております。面会時は、様子をお伝えしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会に来られたり、手紙や年賀状など出す機会を作っております	利用者開始時に利用者の生活歴を聞き取り把握している。住まいの近くをドライブしたり、理美容室への支援を行っている。親族等へ電話をかけた。年賀状や手紙を書き、先方からの返事を楽しみに待つなど馴染みの人との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レク、皆さん楽しめるように工夫したり、共同作業や日中の場面においても、リビングやソファで話をしたり、手伝いあったりされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方の面会に行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望・本人さんの意向を大切に支援をしております	職員は利用者の思いや意向を利用者、家族との会話や日常的な表情から汲み取るよう努めている。また、利用者が喜ぶ時や好まない事を把握し、職員間で共有して利用者が笑顔になれる支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、入所時お聞きしております。好きな歌手・趣味を聞きサービスに取り入れることもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で話し合い個々にあった運動・休養のサービスに努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に要望を聞き3か月に一回、カンファレンスを行い現状意見を聞き介護計画作成をしております	利用開始時に利用者のアセスメントを行い2週間以内に介護計画を作成し、1ヶ月後に見直しを行っている。通常は3ヶ月毎にモニタリングし6ヶ月毎に見直ししている。利用者・家族から作成時や見直し時に意向を聞き、職員や管理者、ケアマネージャーがカンファレンスし、介護支援の計画書を作成して家族の同意を得て実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月25日をカンファレンスの日と決め職員間で話し合いケアの見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診(内科の定期受診・リハビリ・眼科・皮膚科・耳鼻科)の支援をしております。又ご家族の結婚式へ連れて出かけたたりしております。病院も本人さんご家族さんの希望にてお連れしております		

グループホームなぎさ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が慰問に来られ、演奏・又利用者様と一緒に炭坑節を踊ったりされました		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際提携している病院を説明しています。御家族・本人のかかりつけがあれば、そちらを優先している	利用者のかかりつけ医への受診支援は職員が行っており、心療内科からは月2回の往診がある。夜間・緊急時に対応できるよう提携医療機関との連携を構築している。利用者の状態変化や薬の変更などは家族に報告を行い、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化・気づきは常に提携病院の看護師に報告しております。又看護師の方から電話もいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方の面会に行き状況確認や看護師さんより情報提供していただいております。又夜間緊急退院の際も対応しております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、3週間以上にわたり入院した場合、医療行為が必要になった場合は退所となっておりますが長期入院になればホームで対応しております。長期になった場合も連携病院にて対応していただくようにしております	事業所の方針により、現在は看取りを行っていない。ただし、今後を見据え看取りについての検討を行い始めており、提携医師の検討や外部講師による死生学の研修を行い、職員への意識付けを行い始めている。	事業所の看取りに関する方針の話し合いや、重度化や看取りに関する指針の作成などの取組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応を外部の講師より職員会議にて勉強会を行いました。又7月には職員全員休日を利用し救命救急講習を受けカードをいただきました		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回実施、日中・夜間想定をしたり、火災・津波の想定にて実施しております	通報や火災・津波を想定した避難訓練などを年2回行っており、消防署の立会いや消防団の助言を受けている。全職員が普通救急講習Ⅰ修了証を持ち、事業所は緊急サポートステーションの標章を交付されている。また、近隣には災害時の協力を依頼している。ただし、近年は夜間想定避難訓練が行われていない。	最後の夜間想定避難訓練から年月が経過しているため、夜間を想定した避難訓練の実施が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性利用者様は、特にこだわり人格がしっかりされているので、言葉使いをより慎重にしている	居室への入室時はノックや声かけを行い、日常的に利用者を尊重した敬語で話す事を心がけている。利用者の失禁時には自尊心を傷つけないような言葉をかけている。トイレの使用時はタオルをかけるなどの支援を行っている。職員とは採用時に守秘義務の誓約書を交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動の制限をするのではなく側にいて様子を見守り、答えやすい言葉使いをし本人さんの意思を確かめる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースに合わせ生活しております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出(受診も含め)、行事など身だしなみはそれに合った着衣を用意する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付け、テーブル拭き、食後テーブル下のはき掃除を手伝って頂いております	アレルギー除去食や嗜好に合わせた代替食、流動食を提供する際は他の利用者と同じように見栄えがする色や味付けに配慮し、工夫している。手作りの誕生日ケーキや干し柿を食する事もある。外食は飲食店と連携を図り、事前に注文などを行い、利用者が楽しくおいしく食事ができるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の一日の目安の表を用い水分摂取に心がけております。食事量の少ない方には、医師の指示にてエンシュアにて栄養摂取しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人さんが出来る人だと見守り、出来るところまでは、御自分でその後は職員だ介助しケアしております		

グループホームなぎさ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行っております。(排泄チェック表を確認し誘導)なるべく布パンツ使用を心がけております	紙パンツから布パンツへの移行支援を行っている。失禁した場合は時間を調整し、排泄チェック表の利用や言葉かけで支援を行っている。失敗のない排泄を職員と利用者が共に喜べるように、できる限り布パンツでの生活支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、医師と相談し、水分補給、服薬などで調整しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっておりますが、本人さん希望により一人で入浴される方、最後にゆっくり入りたい方、利用者様の意見を取り入れ施行しております	入浴は月・木・土の午前で行っており、要望があれば他の曜日にも入浴できる。温度管理は職員と利用者が行い、希望に応じて二人の同時入浴やジェットバスも楽しめる。また、必要に応じてシャワー浴の支援を行い、入浴を拒む利用者には時間をおいて言葉をかけるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分な睡眠が確保できなかった方、就寝時間が遅い方は、日中横になって頂き休息時間を取るよう心がけております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護日誌にお薬リストをはさみ目を通すようにしています。日誌や連絡ノート、申し送りなどで把握できるようにしております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールのはき掃除、拭き掃除洗濯物たたみ、紙での作品作り、コーヒーを飲んだり、散歩に行かれたりとされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物に行っています。外出行事では、御家族の参加もあります。ペーロンの時は、地域の方が、席を作ってください交流しております	グループホームの周辺を車いすの方も散歩に出かけたりしている。外食・花見・温泉、グループホーム間のお茶会や風船バレー等外出の機会が多い。グループホーム2階のウッドデッキに出て、お茶を楽しみ外気浴となるよう支援を行っている。	

グループホームなぎさ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人自身は、お金を持たれていません。外出時の買い物は立替えにてされる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話の取り次ぎ、利用者様へも何時でも連絡は出来る事を伝えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓より外の景色を楽しむ方が多くなったのでそのスペースを確保しています	リビングは食後のモップかけを職員と利用者が行っている。温度・湿度のチェック表にて過ごしやすくしている。手作りカレンダーや壁飾り・季節の花を飾り四季を感じる事ができるようにしている。リビングでは利用者の楽しみごとになっている音楽療法が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の椅子に座り自分の時間を静かにとっている方がいらっしゃるのを見守りしたり話をしすごしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や利用者様が描いた絵を貼ったり、その方らしいお部屋にしています。絵の他にパッチワーク作品などあります	ベッドと収納棚が備え付けとなっている。居室には温度・湿度計を置き、ぬれタオルなどで乾燥を防ぎ過ごしやすい環境となるよう支援している。位牌や仏壇、アルバム・家族の写真、利用者が描いた絵画などが持ち込まれ、利用者が過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ。自室への表示他の方への入室防止の為名前表示を工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103437		
法人名	(有)なぎさ		
事業所名	グループホームなぎさ		
所在地	長崎市かき道6丁目3-5		
自己評価作成日	平成25年1月24日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々癒しの心で接しております。ウッドデッキがあり、過ごしやすい季節の際はお茶をしたりひなたぼっこをしたりのんびり過ごしております。又リビングにも入居者様が揃って過ごすことがほとんどです。入居者様のペースに合わせ毎日を楽しみ過ごしております。昇降運動・立位運動など個人にあった運動をし下肢筋力低下を防いでおります。無理がないよう楽しくできる運動や生活リハビリを取り入れております。 外食では、利用者様のご希望を聞きお店を選んでおります。空調管理も各居室気配りをしております。 地域行事には、参加を心掛け触れ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「いやし」理念と経営方針は毎月2回、職員会議の際職員全員で読み上げ常に頭に置き実践に繋げています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ガス祭り、ペーロン大会のご利用者様の参加(ペーロン大会は招待されたの見学)地域の敬老会には、職員毎年出し物を披露しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の感謝祭、ガス祭りにてなぎさコーナーを設け、介護相談やホームの暮らしの様子などをお伝えしています。介護用品の説明などもしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プロジェクターにてのご利用者様の写真にて様子を伝えたり、ビデオにてお伝えしています。ご家族の意見をお聞きし制服に名前をつける事、月1回メッセージカードにて様子をお伝えしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にてすこやか支援課の方に参加していただきおりサービスの取組など見ていただいております		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておりません。日頃より身体拘束のないケアを心がけております		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事前に虐待についてのアンケートを取り、職員会議の際時間を設け研修を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について講師を呼び研修をしたり、外部にて研修があれば参加しております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し同意を得ています。又わからない事があれば詳しく説明をしております。要望も聞くようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族の意見を聞いております。会議の参加者の中に第三者委員の苦情係の方も来られています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回の職員会議にて意見交換をしております月一回はカンファレンスを開き利用者様への対応など話す機会があります。又賞与をいただく際職員一人一人が社長との面談にて話す機会も設けております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表にて職員の実績を評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回職員会議にて、外部より講師を招き勉強会を行ったり、職員一人一人にあった研修に日勤扱いにし、行く機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームで地区会を開催したり、又同業者同士の行事に招待したり参加したりと交流を図っております。現在4施設でのご利用者・職員の交流をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前に面接し、御本人さんに要望を聞いたり、伝える事が難しい方は何をしたいのか考え、昔の情報のなどを御家族に聞きサービスに活かしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリをしていただきたいとの要望がある方は、病院にてのリハビリを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯ものを干したり、畳んだり、又入浴準備、シーツ交換も職員と一緒にしております。利用者様がお茶の葉を詰めたり時におやつも一緒に作っております。なるべくご本人さんに役割をもっていただいております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに足を運んでいただく機会を作る為に、日用品や衣類など必要な時は連絡し持ってきていただいております。行事の参加にも働きかけたり、外出時にも声をかけております。面会時は、様子をお伝えしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会に来られたり、手紙や年賀状など出す機会を作っております		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レク、皆さん楽しめるように工夫したり、共同作業や日中の場面においても、リビングやソファで話をしたり、手伝いあったりされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方の面会に行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望・本人さんの意向を大切に支援をしております		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、入所時お聞きしております。好きな歌手・趣味を聞きサービスに取り入れることもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で話し合い個々にあった運動・休養のサービスに努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に要望を聞き3か月に一回、カンファレンスを行い現状意見を聞き介護計画作成をしております		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月25日をカンファレンスの日と決め職員間で話し合いケアの見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診(内科の定期受診・リハビリ・眼科・皮膚科・耳鼻科)の支援をしております。又ご家族の結婚式へ連れて出かけたりしております。病院も本人さんご家族さんの希望にてお連れしております		

グループホームなぎさ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方が慰問に来られ、演奏・又利用者様と一緒に炭坑節を踊ったりされました		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向に沿った受診をしています。又医療機関との連携を図り24時間対応してまいります。個別にて病院受診の指定のご要望あれば、そこへお連れしております		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化・気づきは常に提携病院の看護師に報告しております。又看護師の方から電話もいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方の面会に行き状況確認や看護師さんより情報提供していただいております。又夜間緊急退院の際も対応しております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、3週間以上にわたり入院した場合、医療行為が必要になった場合は退所となっておりますが長期入院にならなければホームで対応しております。長期になった場合も提携病院にて対応していただくようにしております		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応を外部の講師より職員会議にて勉強会を行いました。又7月には職員全員休日を利用し救命救急講習を受けカードをいただきました		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年3回実施、日中・夜間想定をしたり、火災・津波の想定にて実施しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へ敬語にてお話しております。又個人のお部屋への入室時(戸締り・掃除等)声かけをしております		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が入浴後の洋服を決めたり、外食時は好きな食事を選んでいただいております		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースに合わせ生活しております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏祭りでは、ゆかたを着られたり、行事の時はお化粧をしたりされております。毎朝鏡をみてのブラッシングしていただいております。髪の毛のカットもその方にあった髪型・希望に沿うよう努めております		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉嫌いの方は魚料理に変更したり。その方に合わせ刻み食やミキサー食にしております。麺類の時はおいぎり等の支援をしております。食器運びや誕生日会のケーキづくりをしています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の一日の目安の表を用い水分摂取に心がけております。食事量の少ない方には、医師の指示にてエンシュアにて栄養摂取しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは徹底しております。必要な方は声掛けしながらおこなっております。夜間は、義歯のポリドントにての洗浄をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行っております。(排泄チェック表を確認し誘導)なるべく布パンツ使用を心がけております		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっておりますが、本人さん希望により一人で入浴される方、最後にゆっくり入りたい方、利用者様の意見を取り入れ施行しております		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースにて入床時間は異なります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護日誌にお薬リストをはさみ目を通すようにしています。日誌や連絡ノート、申し送りなどで把握できるようにしております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いなど役割を持っていただいたり、月1回の陶芸教室、ドライブにしております。陶芸教室はご要望の利用者様や、外出好きな方も陶芸はしなくても連れて行きます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物に行っています。外出行事では、御家族の参加もあります。ペーロンの時は、地域の方が、席を作ってください交流しております		

グループホームなぎさ(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やドライブなどおこづかいを持っていきご本人さんの好きな物を選んでいただいております。又支払いも一緒にしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取りつきや、希望時や定期的に電話をかけお話ししていただいております。書かれた手紙を預かり職員がポストに入れます。年賀状も出していただいております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気たカーテンで光の調節を行ったり、大きな音は立てないよう配慮しております。温度は細目にご本人さんに尋ねたり、夜間は温湿度のチェックをしています。カレンダーや飾り物で季節感を出しております		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル座席の工夫やソファで話をしたり、歌を歌ったり、ゆっくりした空間作りをしております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から持ってきた家具・仏壇を置いている方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりがあります。廊下のですりにて運動を実施している利用者様がいらっしゃいます。トイレ・風呂の場所がわかりやすいように大きく表示しておりトイレは便所とかいております		